



慶應義塾大学ビジネス・スクール

「12人の怒れる男」

補助資料

5

作者レジナルド・ローズについて

「12人の怒れる男」の原作は50分のテレビ・ドラマであった。作者のレジナルド・ローズは当時（1954年）新進気鋭のTVドラマ作家で、ニューヨーク地方裁判所で故殺事件の陪審員をつとめた体験をもとに執筆し、この作品はナマ放送で放出された。シドニー・ルメット監督で映画化もされ、ヘンリー・フォンダ、リー・J・コップの名演技で世界に紹介されて、作家レジナルド・ローズの名も海外まで知れることになった。授業で教材として使用するのが、この映画である。

「12人の怒れる男」はローズとしては珍しく個人的体験をもとに書いたものだが、密室内での審議、それによって決定される1人の人物の運命など、どれをとっても劇的な体験であり、作家の執筆欲をかき立てずにはすまないものであった。

もしこの作品が10年後に書かれていれば、12人の顔ぶれはもっと違ったものになっていたであろう。おそらく、少なくとも黒人と女性が何人か入っていた筈だ。54年の当時としては、富める者と貧しい者、アメリカを母国とする者とそうでない者、親と子の対立と断絶が背後に描かれている。人種差別はもちろん社会問題としては存在していたが、「12人の怒れる男」では触れていない。肌の色よりももっと基本的な「人間」に焦点を絞ったためであろう。

陪審制度について

アメリカ合衆国では、ある罪を犯したとして起訴された人物は、12名の人物が事実をきいた上で、その者が確かにその罪を犯したと判定しない限り、刑務所に送られることはない。この12名が陪審であり、陪審員である。陪審の目的は、個人が政府から不當に扱われ、身に覚えの

本補助資料は、高木晴夫教授がクラス討議の基礎資料として作成したものであり、映画「12人の怒れる男」に関する補助情報を与えることを目的としている。

本補助資料は慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 高木晴夫 ('04年3月改訂, '08年9月改訂)

ない罪で有罪になるのを防ぐことがある。陪審裁判を必要条件とすることは合衆国憲法および50州の州法に明記されている。ある州では、被告人は陪審の代わりに裁判長に有罪・無罪の判断を求めることが出来るが、これを禁じている州もある。

陪審をつとめることは、あらゆる市民の義務とされている。ある公判が開始されることになると、10数名の人が陪審として出廷するように要請される。この人々の中から被告弁護人と検察官が12名を陪審員に選び出す。各人は、弁護・検察の双方から質問を受け、事件に対し、また被告人に対して先入観や偏見を抱いていないかを調べられる。偏見を持った人物は、陪審として公正な判断を下し得ないと忌避される。

陪審は、提出されたあらゆる事実を聞いた後、裁判長からその犯罪に関する罰則の説明を受け、退廷して陪審室に集まり、評決を出すのである。12名全員が有罪か無罪に一致しなくてはならない。彼らは意見が一致するまで討議するか、或いは法廷にもどって、一致をみなかったと裁判長に報告する。この場合、裁判長は、新しい陪審員を選び直してもう一度、はじめから裁判をやり直さなくてはならない。

このドラマはニューヨーク市での出来事であり、執筆された50年代では、ニューヨーク州では1級殺人には死刑が適用されていた。現在は死刑が禁じられて、最高刑は終身となっている。

参考資料

- 「12人の怒れる男」 レジナルド・ローズ著 紙田やえ子訳 1979年劇書房
- 俳優座劇場プロデュース公演パンフレット 1988年Vol.2

陪審員室の着席表 (人物の呼び名は、陪審員各個人を明示するために、便宜上付したものである。)

1. 陪審員長	()	2. 銀行員
12. 広告代理店社員	()	3. メッセンジャー会社オーナー
11. 時計屋	()	4. 株式ブローカー
10. ガレージの主人	()	5. スラムからきた男
9. 老人	()	6. ペンキ職人
8. 建築師	()	7. セールスマニ

登 場 人 物

1.陪審員長



2.銀 行 員



3.メッセンジャー会社オーナー



4.株式ブローカー



5.スラムからきた男



6.ペンキ職人



sample

sample

sample

sample

sample

7. セールスマニ



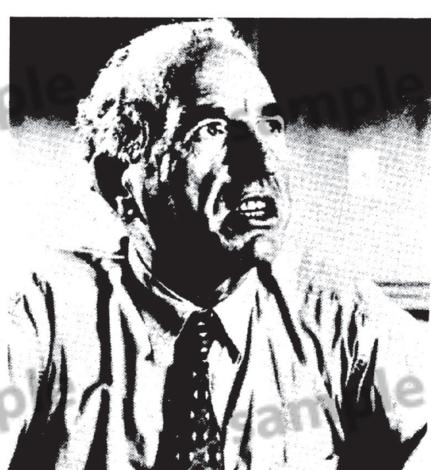
8. 建築師



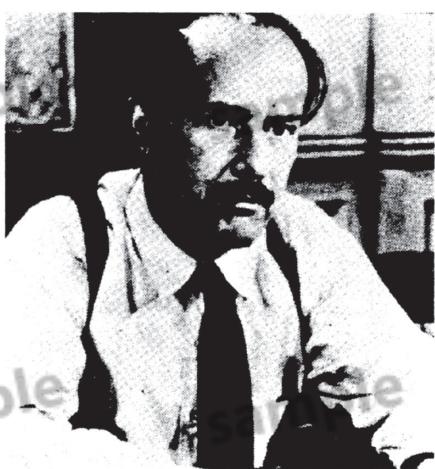
9. 老人



10. ガレージの主人



11. 時計屋



12. 広告代理店社員



sample

sample

sample

sample

sam

「12人の怒れる男」集計表

陪審員 氏名	個人の決定						グリープの 誤差	映画 の誤差
	陪審員長	銀行員	メッセージ会社オーナー	株式ブローカー	スマートな男	ペンキ職人		
1 陪審員長								
2 銀行員								
3 メッセンジャー会社オーナー								
4 株式ブローカー								
5 スマートな男								
6 ペンキ職人								
7 セールスマスター								
8 建築師								
9 老人								
10 ゲージの主人								
11 時計屋								
12 広告代理店社員								
誤差総計								
							グリープ・ メンバーア verage 平均誤差	

(誤差欄)は、正解との差を、すべて正数でとる。)

不 許 複 製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

共立 2010.3 RP150